

都市と交通最終レポート

C1252354 藤橋 佑

A)2 班のレインボーロードのように道路を視覚的に分かりやすくして、事故を減らすという視点は自分のチームの意見で出てこなかったため、とても新鮮で参考になりました。

B)私は、これまでの授業を聞いて地方都市における交通の問題を総合的に解決するためには、行政と企業の関わりが非常に大きく関わってくるものであり、その関係が良いものであればあるほど解決に向かっていくと思いました。なぜ、そう思ったかという点と近年酒田市などに限らず全国の地方都市ではドライバーの高齢化がとて深刻になってきていると思っています。なので、結果的に高齢者の事故件数が増えてしまっているのだと考えました。それを改善するためには、自家用車を高齢者が使用しなくても済むようにバスやタクシーなどの公共交通機関をもっと整えることが必要だと思いました。例えば、バスであれば本数を増やすや、乗る人を実際に増やすために相互にメリットがあるようなシステムを作るなどが挙げられます。しかし、地方都市では利用者の減少によってバス路線が縮小されるという悪循環が起きており、単に本数を増やすだけでは解決が難しいと考える。そこで重要になってくるのが、行政と企業の連携である。行政は補助金や制度設計を通じて公共交通機関を支え、企業はサービスの質の向上や新しい仕組みの導入を担うことで、相互にメリットのある関係が続けることができると言える。例えば、デマンド型交通や予約制の乗り合いタクシーなどを導入することで、利用者のニーズに合わせた効率的な運行が可能になる。また、IT 技術を活用したアプリによる予約や支払いの簡略化も、公共交通を利用しやすくする一因になるだろう。さらに、交通問題は単なる移動手段の問題ではなく、地域の暮らしやまちづくり全体に関わる課題である。公共交通が充実することで、高齢者の外出機会が増え、地域の商業が活性化する可能性もある。また、若者にとっても生活しやすい環境を整えれば、地方都市への定住促進にもつながると考えられる。以上のことから、今後の地方都市の交通問題を改善するためには、道路設計などの安全対策に加え、行政と企業が連携し、地域全体を見据えた公共交通の整備を進めていくことが重要であると考えます。交通を「移動の手段」としてだけでなく、「地域を支える基盤」として捉える視点が、これからの地方都市には求められているのではないだろうか。